

たんけんたい ふるさと米子 探検隊



第26号 むかしの子どものからしと遊びの巻

米子市立図書館 編刊／2024.3 TEL0859-22-2612 FAX0859-22-2637 <http://www.yonago-toshokan.jp>



むかしの米子の
子どもたち



太郎さん 現在84才
昭和14(1939)年
生まれ

花子さん 現在65才
昭和33(1958)年
生まれ

みなさんは、家の中や家のまわり、学校などでどんな暮らしをしていますか？今ではおじいちゃんの太郎さん、おばあちゃんの花子さんが子どもだったころは、どんなくらしや遊びをしていたのでしょうか。学校ではどのように過ごしていたのでしょうか。

太郎さんや花子さんの子どもころのお話を聞きながら、今から50年から80年くらい前の米子の子どもたちのくらしや遊びをいっしょに見てみます。さあ、昔の子どもたちの世界へ探検に出かけましょう。

さんこう しりょう 探検隊の参考資料

今回の探検隊作成で参考にした資料です。図書館には、みんなの探検を助けてくれるたくさんの資料があります。資料のくわしい紹介は、米子市立図書館郷土資料調べ案内「冒険の書」をご覧ください。

- ・『昔の子どものからし事典』本間昇 監／岩崎書店 2006 384㍑
- ・『くらべる100年「もの」がたり』昔のからしと道具がわかる 2 遊びと学校の道具
新田太郎／監修 学研教育出版 2015 383㍑
- ・『道具からみる昔のからしと子どもたち2あそび』須藤 功／編農山漁村文化協会 2016 382㍑
- ・『発見!ニッポン子ども文化大百科 3 昭和後期・平成』
上 笙一郎／監修 日本図書センター 2012 384㍑
- ・『昭和の子ども図鑑』櫻井尚 東洋出版 2019 384㍑
- ・『おばあちゃんの小さかったとき』おちとよこ／文・ながたはるみ／絵 福音館書店2019 384㍑
- ・『おじいちゃんの小さかったとき』塩野米松／文・松岡達英／絵 福音館書店 2019 384㍑
- ・『昭和のからしがわかる事典』早川典子／監修 PHP研究所 2010 210㍑
- ・『だるまちゃんと楽しむ 日本の子どものあそび読本』加古里子／著 福音館書店 2016 384㍑
- ・『ポプラディア 情報館 昔の暮らし』ポプラ社 2005 382㍑
- ・『日本伝承遊び事典』東京おもちゃ美術館編 黎明書房 2018 384㍑
- ・『鳥取のわらべ歌』酒井薫美、小原昭夫著 柳原書店 2020 Y388㍑
- ・『米子の歴史』米子市教育委員会 2017 Y224ヨナ
- ・『新修 米子市史 11巻 資料編 現代』米子市史編さん室 米子市 2006 Y224 Y19 11B
- ・『米子市初等教育史』米子市初等教育史編纂委員会 1982 Y37Y29C
- ・『米子商業史』米子商工会議所 米子商業史編纂委員会 米子市 1990 Y670 Y3-9F
- ・『10周年記念誌』米子青年会議所 1968 Y093Y7



昭和20(1945)年ごろ

太郎さんの子ども時代は戦後まもないころでした。家のまわりは畑や田んぼ、野原や空き地が今よりたくさんありました。道路も舗装されていない土の道でした。虫や鳥、タヌキや野ウサギもいましたし、ノラ猫やノラ犬も、今よりたくさんいました。海や川にも、今ではあまり見られなくなった貝や魚も多くいました。



昭和初めの義方小学校の近く



昭和45(1970)年ごろ

花子さんが子どものころも、今より野原や空き地が多くありました。舗装された道は少ししかなく、ほとんどが土の道でした。車も少ししか走っていませんでしたので、子どもたちの遊び場がたくさんありました。



いろり

【家での生活】



太郎さんが子どものころは、電気は部屋の天井からぶら下がっている電球くらいにしかなっていませんでした。洗たくは桶で手洗い、そうじはほうきやぞうきんでするのが当たり前でした。

ごはんの用意もかまどの火で煮炊きしました。米子の町の中にはおふろのない家が多かったもので、太郎さんはよく家族でおふろ屋さんに行きました。おふろがある家では、火を焚いて沸かししました。子どもたちには水くみや、火の番などのお手伝いがたくさんありました。おつかいで、おとうふ屋さんになべを持ってとうふを買いに行くこともありました。夏はうちわであおぎ、窓をあけてねるので、虫よけに蚊帳をつつて中に入ってねました。



ごはんをたくかまど



蚊帳



火鉢

太郎さんの家の近くの魚屋さんなどには冷蔵庫がありましたが、木でできた冷蔵庫で電気で冷やすのではなく、氷屋さんから買ってきた大きな氷を入れて冷やすものでした。スイカなどは冷たい川の水で冷やしました。

冬は囲炉裏や火鉢、掘りごたつで炭や練炭を入れて暖まりました。

日本でテレビ放送が始まったのは、太郎さんがもう少し大きくなった昭和28(1953)年です。米子市でテレビを観ることができるようになったのは、昭和33(1958)年からでした。そのころはまだテレビがある家庭は少なく、野球や相撲の番組が始まると、近所の人たちがテレビのある家に集まっていっしょに応援しました。



白黒テレビ



花子さんが子どものころから、初期の洗濯機や冷蔵庫、白黒テレビなどの電化製品を使う家庭が少しずつ増えてきました。大きくなるころには、エアコンも一般家庭で使い始めました。

夜おそくまでテレビを観ると、よくおこられたなあ



【学校での生活】



太郎さんの子どものころは、ほとんどの小学校は木造校舎で平屋か2階建てでした。昭和22(1947)年に教育制度が改められ、それまで男女別々の教室だったのですが、男女同じクラスで授業を受けるようになりました。男女は同じクラスになっても遊ぶときはほとんど別々でした。



昭和24(1949)年ごろの成実小学校

夏はプールがなかったもので、毎年、夏休み前になると学校近くの湊山の出山海水浴場で水泳の授業がありました。炒った大豆を腰にぶら下げて泳ぐと、ちょうどいい塩加減でやわらかく



昭和28(1953)年の5年生の教科書

なっていておいしいので、それがとても楽しみでした。

冬になると教室にはストーブがなかったもので、大きな四角い火鉢で教室を暖めました。

給食はなかったもので、みんな弁当を持ってきました。弁当の中身はごはんだけで、おかずはあってもほんの少し、ほとんどが梅干しや味噌だけでした。米子市で小学校給食が始まったのは、昭和22(1947)年からでした。昭和26(1951)年からパン、汁、ミルクの完全給食となりました。



昭和35(1960)年以降、米子市内の小学校は次々に鉄筋コンクリートの校舎に建て替えられ、花子さんが学校に通うころにはプールや体育館、視聴覚室など、新しい施設を備える学校が増えました。そのころ、1クラスは40人以上で、教室はぎゅうぎゅう詰めでした。机は木の二人机で、隣り同士が、半分からはみ出ないように机の真ん中に線を引くこともありました。



二人机



黒板

学校は土曜日にも授業があり、「はんどん」といって、午前中だけの授業で午後はお休みでした。今と同じように、先生は黒板に白墨(チョークのこと)で書いていました。プリントは「ガリ版」とよばれる機械で作りました。教室にはオルガンがありました。学校に行くときには必ず「ハンカチとちり紙を忘れずに!」と大人から言われていました。ちり紙は半紙くらいの大きさのごわごわした紙で、今のティッシュペーパーやトイレットペーパーと同じ役目をしていました。



オルガン



ガリ版印刷機



給食の食器

花子さんは学校で給食を食べましたが、当時は牛乳ではなく、アルマイトという金属の食器に入った脱脂粉乳が出て、味があまり好きではありませんでした。小学生の途中から、ビンの牛乳に変わり、ビンのフタを飛ばしてよく遊びました。その後、三角パックの牛乳になりました。

学校には宿直室といって、先生が学校に泊まる部屋がありました。

昭和36(1961)年の富益小学校の遠足の様子。米子駅から安来の清水寺まで歩きました。遠足は遠くても歩いて行きました!



学校帰りには帰り道で草をつんだり、虫をとったり、近所の人に声をかけてもらったりしながら、回り道や寄り道をして友だちと一緒にぶらぶら家に帰りました。

宿題もそれほど多くなく、習い事はそろばん、習字、ピアノくらいしかなかったので、学校から帰ったらカバンだけ家に置いて、ほとんどの子どもたちが日が暮れるまで外で遊びました。夕方になるとお母さんたちが「ごはんだよー」と呼びに来るので、♪かえるがなくからかえろ♪といって帰りました。



太郎さんの子どもころから学習発表会もあったで〜。学芸会とよばれとったよ。

【くらしの中の楽しみ】

太郎さんの子どもころは、本屋さんは大きな町にしかありませんでした。米子市には図書館がありましたが、子どもの本はありませんでした。子どもの本は、昭和 34（1959）年から始まった、米子 J C 図書館（米子青年会議所による児童図書館）で見ることができました。



米子 J C 図書館（昭和38（1963）年）

花子さんの子どもころから、今でも続いている月刊マンガや週刊マンガがあります。月刊「なかよし」（講談社）は昭和 29（1954）創刊、「りぼん」（集英社）は昭和 30（1955）年に創刊、週刊「少年サンデー」（小学館）と「少年マガジン」（講談社）は昭和 34（1959）年に発行されました。



今はもうなくなったマンガ雑誌

年中行事では、お正月、とんどさん、ひなまつり、花まつり、お節句、七夕、お盆やお彼岸、大晦日などの行事のたびに、家族といっしょに飾りつけを手伝ったり、ごちそうを作ったりしてお祝いをしました。年中行事はたくさんの方が集まってとてもにぎやかな上、子どもたちは遊びながら手伝うことができるので、いつも楽しみでした。米子の夏の名物「がいな祭」は、花子さんがもう少し大きくなった昭和 49（1974）年から始まりました。

楽しみなお買い物！

汽車に乗って松江の一畑デパートに連れて行ってもらうのが楽しみだったなあ。小学校 1 年生のころ、米子に初めてデパートができてうれしかったー！！



- ・高島屋…昭和39(1964)年～
- ・やよいデパート…昭和45(1970)年～平成28(2016)年
- ・米子ストア…昭和38(1963)年～昭和46(1971)年
→大丸となる
- ・米子大丸…昭和46(1971)年～平成2(1990)年
→その後、天満屋となる



高島屋
昭和39（1964）年～昭和43（1968）年ごろ



米子ストア
昭和38（1963）年～昭和43（1968）年ごろ

遊 び

【外あそび】



太郎さんの子どもころも、花子さんの子どもころも、川、池、山など、

家の近くや行ける範囲なら、子どもたちはどこでも遊びました。男子は「肥後守」というおりたたみのナイフを持っていて、えんぴつをけずったり、竹や木の枝を切ったりして、自分で遊び道具を作っていました。竹とんぼや竹の水鉄砲、杉の実鉄砲、パチンコや竹ぼっくりを作りました。魚つりの竿や竹馬、とんぼとりの道具なども年上の子から教えてもらって自分で作りました。



竹とんぼ



パチンコ



竹馬

家のまわりには田んぼや畑、原っぱや空き地など、遊ぶ場所はいくらでもありました。海や川では魚釣り、大きな木があれば木登りもできました。近所の子どもたちと集まって、暗くなるまで遊びました。

大きい子も小さい子もいっしょに遊びました。その中でリーダー的なガキ大将がいて、小さい子には特別ルールを作るなど、みんなで上手に遊びました。遠くまで歩いたり、木に登ったり、外遊びばかりしていたので、みんな日に焼けて真っ黒でした。

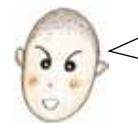


こんな遊びをしとったよ！

- 缶けり…かくれんぼをしながら、鬼が守っている缶を鬼のいないすきをねらって蹴る。
- 石けり…相手の陣地に石を蹴り入れ、ケンケンしながら進み、自分の陣地のラインから石を拾う。
- Sケン…Sの形にそってケンケンをしながら相手とジャンケンをして、勝った方が先に進む。
- 馬乗り…2組に分かれて負けた方が馬チームになる。
- 杉の実鉄砲…竹鉄砲を作って杉の実を弾の代わりにつめて飛ばす。
- ビー玉…地面に穴をあけて、穴に向かってビー玉を飛ばす。近くのビー玉をはじき飛ばして邪魔をしながら穴に入れたら勝ち。勝ったら他の人のビー玉をもらえる。



※馬乗りの様子。あぶないので、今は禁止になった。



魚屋さんやぼん菓子売りなどの店先で、お店の人と話したり、いろいろ観察したりするのも楽しみだったなあ！

外にごさを敷いて、木の実や葉っぱ、かけた茶碗などを使っておまごもしたよ。



シェー！

マンガ「おそ松くん」のキャラクター、イヤミの「シェー！」のポーズ。みんなまねしとったなあ。



材木置き場で遊ぶ子どもたちの様子。昭和 20（1945）年代の朝日町だよ。





わらべ歌

♪はないちもんめ
 ♪あぶくたった
 ♪かごめかごめ
 ♪ことろことろ
 ♪だるまさんがころんだ

まりつき
 ♪あんたがたどこさ

なわとび
 ♪ゆうびん屋さん

ゴムとび
 わゴムを長くつなげて作った縄に足を引っかけたり跳びこえたりしました。



♪ことろことろ どのこをことろ♪

♪まりつき歌♪
 ♪いちもんめの
 一助さん 一の字が
 嫌いで一萬一千
 一百億
 一斗一斗一斗米の
 お札を収めて
 二もんめに渡した

♪なわとびうた♪
 ♪おおなみなみで
 やましてやましてあっぱっぱ



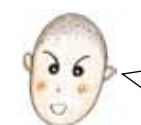
四季の遊び

春

ピーピー豆（カラスノエンドウ）の笛
 オオバコ・スミレ・松葉の草ずもう・
 シロツメクサのかんむり・たんぽぽ
 のうでどけい・みずぐるま

秋

どんぐり工作（コマ、やじろべえな
 ど）・枯れ葉のたき火でやきいも



むぎぶえ
 麦笛、草笛、スズメノテッポウ、
 つばき
 椿の葉、カラスノエンドウなど、
 いろいろな笛をつくって鳴らし
 たぞ！

夏

竹の水鉄砲・ささぶね・エノコログサ
 の毛虫・スイカの皮や里いもの葉のお
 面・ほおずきの風船や人形・とうも
 ろこしの皮の姫様人形・朝顔の色水・
 虫とり・石（水）切り・魚とり・
 せっけんのシャボン玉

冬

お正月遊び（はねつき・こままわし・
 たこあげ・かるたとり・ふくわらい）
 雪合戦・雪だるま・そりすべり・お
 しくらまんじゅう・スキー・
 みかんの汁のあぶりだし



家遊び

友だちや自分の家だけでなく、近所のおじさんやおばさん、
 小さな工場の店先、駄菓子屋さんなどなど、どこでも遊び場
 でした。近所の人もこころよく受け入れてくれました。縁側に上がり込んで近所のおばあちゃん
 にお手玉を教えてもらうこともありました。

かるた・おてだま・将棋のこまをつかって
 山くずし・まわり将棋・ダイヤモンドゲー
 ム・すごろくなどをしたよ！



絵かき歌（外では棒で地面に描いたよ！）

まんまるちゃん まんまるちゃん
 まんまーるちゃん
 まんまるちゃん まんまるちゃん
 まんまーるちゃん
 ちいさいおふねにのせられて
 父さん母さんさようなら
 ろくろくちゃんろくろくちゃん
 36
 ろくろくちゃんろくろくちゃん
 ふじのやま



よこよこたてたて
 まるかいてちよん
 まるかいてちよん
 おーやまさんこやまさん
 かちかちやまがわおわがじだ
 あめがざーざーふってきて
 あっというまにわひめさま



はっぱがいちまいあったとさ
 はっぱのうえにめだまやきめだまやき
 おみみがふたつはえてきて
 わんこかなけがさんぼん
 あっというまにQ太郎



「おばけのQ太郎」は
 マンガ・アニメで
 大人気だったよ！



♪よなごからさかえまで～
 歌いながら葉っぱをちぎったなあ



わらべ歌

手合わせ歌

♪せっせっせのよいよいよい～
 ♪おちゃらかほい、
 ♪茶摘み
 ♪みかんのはな
 ♪げんこつやまのたぬきさん
 ♪お寺の和尚さん、
 ♪ずいずいずっころばし、はんかちおとし

●おてだま

おさらい…親玉一つと小玉5つで遊ぶ

●おはじき…2つの間に指で線を引いて、1つをはじいてもう一つに当てる

●あやとり…ぱんぱんぼうき、はしご、東京タワー、ゴム、手首向き、首抜き、ひとりとり

♪おひとつおさら おふたつ～
 おみんなおさら おてのせ おつかみ
 おはさみ 小さい橋くぐれ～
 ♪ゆりだま…両手に持って投げ上空中
 に投げ上げる

♪大山がでてくるわらべ歌

ゆきやこんこん
 あられやこんこん
 だいせんやまの
 ゆきころころや



●ハンカチあそび、手袋人形…バナナ、リボン、月光仮面、ネズミ

●紙工作…紙ひこうき、紙でっぼう、紙の手品、紙の笛、
ぶんぶんごま、紙相撲などの遊び道具づくり、
えんばん
円盤とばしなど

●ほかにもいろいろ…ヨーヨー、けん玉、こままわし

水鉄砲



鉄ゴマ



音が出るおもちゃの鉄砲

おもちゃ屋さんのおもちゃ



おもちゃ屋さんのおもちゃは
めったに買ってもらえなかつ
たけん、ブリキのロボットは
宝物だったなあ！



ブリキのロボット



洗濯機



笛

セルロイドの人形

テレビマンガのキャラクター

てつわん
「鉄腕アトム」

てつじん
「鉄人 28 号」

「ウルトラマン」



かいじゅう
怪獣の戦い



セルロイドのあひる



ふね



金魚

だ が し や 駄菓子屋さん

あてくじ・あめ・めんこ・ビー玉・ベーゴマ・鉄砲のおもちゃ・
おはじき・紙風船・ぬりえなどおやつや遊び道具を買っていた。



ねこ

今でもあるよ！昔から続く米子の駄菓子屋「岡本一銭屋」

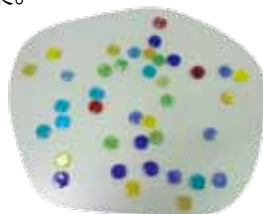
昭和 9 (1934) 年創業。

おかもと一せん や

そうぎよう



ベーゴマ



おはじき



ぬり絵



友達と一緒に当てくじ
しによく行ってたなあ



かみしば い や 紙芝居屋さん

公園などに来て、アメなどを買った子どもだけにおじさんが紙芝居を見せてくれた。

【写真協力】ブリキのおもちゃ等／国頭 徹夫氏 その他の資料／山陰歴史館

調べてみよう！

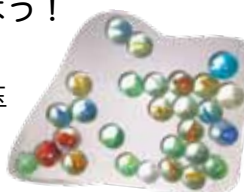
- むかし子どもたちがどんなあそびをしていたのか、おじいちゃんやおばあちゃん、家族や地域の大人に聞いてみよう！
- その遊びにチャレンジしてみよう！

〈体験ができる場所〉

米子市児童文化センター 米子市西町 133 番地

鳥取童謡・おもちゃ館 わらべ館 鳥取市西町 3 丁目 202

ビー玉



今でも遊べるものが
たくさんあるなあ！

